

高齢化する障害のある人の暮らしに関する 調査研究

社会福祉法人 わたぼうしの会

〒630-8044 奈良県奈良市六条西 3 丁目 25 番 4 号

助成事業の概要

研究概要

1, 事例から学ぶ

コットンハウスで暮らす入居者 2 名に関する、本人と支援者へのヒアリング調査を行った。これまでの生活歴や支援者へのヒアリング調査などをおして、コットンハウスでの試行錯誤を記録した。

2, 研究会の開催

「古い」「暮らし」に関連する研究会を 4 回実施した。

2021 年 9 月 14 日 (火)

「脳性麻痺と二次障害」古川智子さん(理学療法士)

2021 年 11 月 16 日 (火)

「暮らしの場での高齢化への対応と看取り事例」久門誠さん(公益社団法人京都市身体障害児者父母の会連合会「じゅらく」「せせらぎ」「ぷらり」)

2022 年 1 月 13 日 (木)

「障害のある人が高齢化に伴い直面する権利擁護的側面での課題について」山口まゆみさん(あかるいみらい準備室)

2022 年 1 月 29 日 (土)

「アドバンス・ケア・プランニング (ACP) について学ぼう～障害のある人の暮らしの場での ACP について～」西川満則さん(国立長寿医療研究センター緩和ケア診療部/EOL ケアチーム医師)、大城京子さん((株)Old-Rookie 快護相談所和び咲び副所長/主任介護支援専門員)

3, 施設見学

高齢化問題に直面したり、医療との連携に取り組んでいる施設を訪問し、ヒアリング調査を実施した(3カ所)。

- ・公益社団法人京都市身体障害児者父母の会連合会「重度障害者通所介護じゅらく」
- ・社会福祉法人史明会「看護小規模多機能型事業所 varie」 「ボイス西ノ京」
- ・社会福祉法人乙訓福祉会「ハイツ竹とんぼ」

事業の成果

◎ヒアリング調査について

コットンハウスで暮らす入居者 2 名に関する、本人と支援者へのヒアリング調査を行った。これまでの生活歴や支援者のヒアリング調査などをおして、コットンハウスの試行錯誤を記録することができた。毎日現場で働いているスタッフからは、「毎日やっているといつのことだったのか覚えていないこともたくさんあって、まとめることで思い出したこともある」「コットンハウスの他のスタッフやパートスタッフの方にも読んでもらって感想を聞きたい。医療的ケアに対応するようになったときに議論はしたと思っているが、どこまで話を聞いていたか。その時々精一杯でちゃんと話を聞いていなかったのではないかな」などの感想が寄せられた。今後、ますます高齢化がすすむコットンハウスのなかで、入居者の方の生活をどのように守るかを改めて考える機会になった。

◎研究会について

4つのテーマを設定して研究会を行った。3つの研究会は内部のスタッフ向けに行い、実際に利用されている方の状況と照らし合わせて議論することができた。「アドバンス・ケア・プランニングについて学ぼう」は、外部向けにも告知を行い、当初は対面での実施を検討したが、新型コロナウイルスの流行拡大でオンラインでの実施となった。関心のある人たちの参加を得て、貴重な学びの機会をつくることができた。研究会のなかで印象的だったのが、「障害のある人はそれぞれ違う。今対応していることと全く同じことは起こらないだろう。それでもどうすることがいいのかを考え続けることが、豊かな生活をつくるために必要なことではないか」という言葉だった。障害のある人の問題を通して、社会の問題を見直す機会をつくることができた。

◎施設見学について

3カ所の施設を見学するなかで、同じ問題をかかえ、悩みながら運営されている様子や、いろいろな方法で課題にアプローチされていることを共有することができた。

成果の広報・公表

今回実施した調査研究に関する報告書「障害のある人の老いや病を支え続けるために～高齢化する障害のある人の暮らしに関する調査研究事業報告書」を500部作成し、ホームページやSNSで周知を行い、関心のある人に配布する予定である。ケアでひろがる、ケアでつながる支えあいの情報モール「HELP ON HELP」でも情報公開し、障害のある人の高齢化について興味関心のある人とつながるきっかけとした。

また、調査研究事業の一環で行った研究会や見学について、法人で発行している通信、年次レポー

トで取り組みの報告を行った。

とくに一般に公開した「アドバンス・ケア・プランニング」についての関心は高く、障害福祉分野を中心に周知したが、高齢福祉分野の方からの参加も得ることができた。

今後の展開

報告書を活用し、コットンハウスに関わっているスタッフやケアスタッフとの意見交換を実施したり、外部の協力者の方も含め、福祉ホームでの医療的ケアの実施に関する検討会を実施する予定である。現在、医療職の配置のない福祉ホームがどこまでのケアに対応できるのか、高齢化することによって必要になるケアの負担にどう対応していくかを日々の暮らしを支えながら振り返る機会をつくるきっかけになった。

ヒアリング調査の事例に取り上げた上野和子さんのこれまでを振り返る「ヒューマンレガシー～みんなと語る、上野和子さんのものがたり～」展を令和4年5月17日～6月18日までアートセンター HANA で実施する予定で取り組みを進めている。彼女のこれまでの人生が周囲に与える影響を振り返り、これからの人生がより実り多いものになるような展示となる予定である。

「老い」「暮らし」に関する研究会を実施したことで、テーマを設けた勉強会はスタッフ間の意見交換が活発になったため、継続して実施をしていきたいと考えている。